

DIT CAMPUS

大同工大キャンパス
No.59
2006.12

W

するぞ！WEEK

- 燃料電池の製作体験授業は引っ張りだこ
- “電気・電子に親しむ場”電気工房
- DIT伝統のレガッタ大会
- 学生の挑戦
- 地域連携公開講座
- 学食人気メニューランキング

DITのワクワクをあなたに届けます。



写真提供：アルバム委員会

CONTENTS

- トコトン先生
- 電気工房講座
- 市民公開シンポジウム
- 体育大会・レガッタ大会
- 学生の活躍

- 滝春キャンパス
- ひそかなグルメスポット ⑨
- 開かれた大学
- 教員の新刊書出版
- やるじゃんトピックス

- 新任教職員紹介
- きょうだい・親子でDIT ③
- Cafe@dit ②

トコトク先生 大活躍!

高校や 中学校から 引っ張りだこ

先生ばかりでなく卒研生・大学院生も含め、今、堀研究室は超多忙。三重県の工業高校をはじめとする多くの学校から、授業依頼が殺到しているからである。

三重県では、シャープの亀山工場誘致に見られる如く、先端産業の集積が積極的に進められている。

この方針に沿う形で、三重県の工業高校においては、燃料電池に関する基礎的な知識や技術を生徒に学習させる取組みを積極的に進めている。

この取り組みの先導役として白羽の矢が立ったのが、燃料電池研究開発の権威である堀美知郎教授（工学部／機械工学科・先端機械工学専攻）である。常々、若者の理工系離れが進めば日本はダメになると危惧していた堀教授は、この社会的要請に答えるべく、燃料電池の製作体験授業をとおして、ものづくりの面白さを伝えることに燃えている。今年は、東海3県や滋賀県の高校から招待が相次ぎ、20回を超える講演と製作体験授業を実施している。来年は、100回を超える製作体験授業の計画が進行している。

今号では、産業界において大変重要なコンテンツを担う「燃料電池」を子どもたちに体感させる試みで反響を呼び、多方面より引っ張りだことなっている堀研究室に焦点を当ててみる。

卒業研究生のアイデアから始まった 燃料電池の製作体験授業

燃料電池の研究開発においてセルの製作には大掛かりな製造設備を使用し最低でも丸一日を要している。堀研究室では、これを60分間の授業の中で、しかも家庭の台所や高校の理化学教室にあるものだけを使って燃料電池を作り上げることにチャレンジしてきた(写真)。従来の電気炉は台所にあるトースターに替わった。空気を供給するプロアは熱帶魚の水槽に空気を送るミニチュアのポンプに替わった。堀研究室の燃料電池の製作体験授業は、こうした研究員や卒研究生のアイデアから始まった。

2004年に始まり今年大きく羽ばたいた 燃料電池の製作体験授業

燃料電池の製作体験授業は、2004年に、一宮高校のスーパーサイエンススクールの授業を支援するかたちで始まった。2005年には、三重県の教育委員会の依頼を受け、同県の工業高校を対象とした「高大連携」として本格化した。愛知県の場合には、今年、4月22日に本学で実施し750名の出席者を集めた燃料電池セミナーの成功を受け(写真)、刈谷工業高校、春日井工業高校、岡崎工業高校、佐織工業高校、幸田高

●燃料電池の製作手順



- ①触媒の混合
- ②触媒の塗布
(ビーカーとピベットで)
- ③電極と膜の一体化
(綿付けてトースターへ)
- ④発電
(プロペラの回転速度を観る)

校などから燃料電池の製作体験授業の依頼が相次いでいる。

工業高校からの製作体験授業の依頼は、電気科、機械科、電子機械科、建築科、情報科、工業化学科など全科にわたっている。とりわけ電気科からの依頼が圧倒的に多い。全国的に進む工業高校の電気科離れを食い止めるための活路を燃料電池に見出そうとするものである。



燃料電池セミナー

遠方からの燃料電池製作体験授業の依頼も多い

遠方の高校からの依頼にも全て応えている。昨年、製作体験授業を実施した伊勢工業高校、今年、製作体験授業を実施した名張西高校、伊勢工業高校、津工業高校さらには近江八幡工業高校の場合には、堀



滋賀県同窓会と堀教授

教授のみならず堀研究室の研究員や大学院生の多くが高校の近くのホテルに前泊して対応している。

遠方の高校の場合、大同工大のOBがパイプ役を果たしてくれることが多い。岐阜県立高山工業高校には2人の大同工大の卒業生が教員として勤めている。今年、その卒業生から依頼があり、10月13日に一日がかりで堀教授と堀研究室のメンバーが高山市に出向いた。色々な科から30名の学生が燃料電池の製作体験授業にチャレンジした。同校のデザイン科は高山の伝統的な家具屋に多く卒業生を送り込んでいるが、その将来の「高山の匠」がナノテクノロジーの燃料電池技術にチャレンジする姿はいさか感動的なものがあった。今年の11月9日～10日には、大同工大卒業生から依頼を受け滋賀県に出向いた。9日には大同工大同窓会滋賀支部に対して燃料電池に関する講演(写真)を、また、10日には近江八幡工業高校の全校生徒700名に対して燃料電池に関する講演(写真)と40名の学生に対して燃料電池の製作体験授業を実施した。



近江八幡工業高校で700名の前で講演をする堀教授

オープンキャンパスや
オープンスクールを支援

大同工業大学のオープンキャンパスの常連となった燃料電池が、東海3県の工業高校の中学生を対象としたオープンスクールのイベントとして注目されている。大同高校でのオープンスクールに駆り出されることは勿論であるが、佐織工業高校の取組みもユニークである。

10月23日に、佐織工業高校の校長先生が本学の燃料電池研究センターを見学。10月25日には佐織工業高校において地元の中学校の教員を対象に燃料電池の製作体験授業を実施（写真）。その教員が中学生に燃料電池の製作体験授業を実施するという企画である。こうした中学生の中から10年後、20年後、東海地区のものづくりを支える技術者が出てくることを期待して止まない。



佐織工業高校で地元の中学校教員を対象とした燃料電池の製作体験授業

高校の教員、一般市民、中小企業の 経営者への燃料電池の製作体験授業

高校の教員に対する燃料電池の製作体験授業の依頼も多い。まず、教員が燃料電池の製作体験授業を受け、それを高校生に教育しようと



高校の教員への製作体験授業



中小企業経営者への製作体験授業

マスコミも注目

燃料電池の製作体験授業に対してマスコミも注目しつつあり、テレビや新聞などで報道されることも珍しくない。全国紙のみならず地方紙も興味をもって報道してくれるのも嬉しい(コピー)。



岐阜新聞
2006.10.19



讀壳新聞
(2006.9.24)

電気工房の目的は「実物教育」です。

電気・電子回路の勉強（講義、座学）をしても実際の電気・電子回路を触ったことも作ったこともない学生に深い理解度を求めるることは至難の業です。

そこで、日常的に電気・電子に触れられるよう場所、部品、工具を用意し、学生に“電気・電子に親しむ場”を提供する為のものです。

本学の学生は消極的で“場”的提供だけでは遊んでくれないので、呼び込み、キックオフの足掛かりとして「パソコン自作講座」「真空管ラジオの製作講座」等を実施しました。

これからも、電気・電子回路関連の自作講座を半期に1度程度の頻度で開催して行きます。

第1回「手作りパソコン講座」

10月21日（土）、10人限定「手作りパソコン講座」を開講しました。

終了後の参加学生たちは、「各部品の仕組みについても知りたくなった」や「アップグレード講座もやって欲しい」など、意欲的な声を聞くことができました。



第2回「真空管ラジオの製作」

11月14日（火）、男子学生6人と女子学生2人の計8人が真空管3本を使った、本格的な3球真空管ラジオの製作にチャレンジしました。

黙々と製作すること2時間20分、どこからともなく、かすかな音が聞こえてきました。野呂俊人くん（E06）の真空管ラジオからです。

みんなアンテナ用リツ線を枠へゆるまないよう丁寧に巻く作業に苦戦し、思っていた以上に製作時間が掛かりましたが、その分、スピーカーから聞こえてきた何となく懐かしい音に、歓声を上げていました。



都市環境デザイン学科 市民公開シンポジウム

「名古屋市南部の水害対策を考える」の開催報告

都市環境デザイン学科 教授 大 東 憲二

2006年(平成18年)7月23日(日)の14:00~16:00に、工学部都市環境デザイン学科主催の大同工業大学市民公開シンポジウム「名古屋市南部の水害対策を考える」をゴビーホールで開催しました。

このシンポジウムを開催する契機となったのは、2005年(平成17年)8月29日にアメリカ合衆国のニューオーリンズを襲ったハリケーン・カトリーナが、海拔ゼロメートル地域に大きな被害を与えたことです。名古屋市南区は、1959年(昭和34年)9月26日に襲来した伊勢湾台風によって甚大な被害を被っており、また、海拔ゼロメートル地域を抱える点で、ニューオーリンズとよく似ています。

このシンポジウムでは、伊勢湾台風のような大型台風が上陸した際に、名古屋市南部に住んでいる人たちが生き延びるために、住民、行政、そして、この地域の大学である大同工業大学が何をすればよいかを考えました。

シンポジウムの構成は3部構成で、まず第1部では、「ハリケーン・カトリーナに学ぶー中部の危機管理強化に向けた取り組みー」について、国土交通省中部地方整備局河川部河川計画課技官の山根宏之氏に講演していただきました。山根氏は、本学の建設工学科土木工学専攻を1999年(平成11年)に卒業し、大学院工学研究科建設工学専攻に進学した後、2001年(平成13年)に同専攻を修了し、国土交通省に入省されました。山根氏は私の研究室に所属し、卒業論文と修士論文で濃尾平野の広域地盤沈下に関する研究を行っていたことから、現在、東海三県地盤沈下調査会の事務局も担当しております。



鷺見哲也助教授

次に第2部では、伊勢湾台風を体験された蟹江氏と高橋氏に体験談をお願いしました。残念ながら、蟹江氏はシンポジウム直前になつて体調を崩されましたので、本学エクステンションセンターの片岡室長に蟹江氏のメモを朗読していただきましたが、ご自宅の前の大同高校旧校舎に避難されたときの様子がよく分かりました。また、高橋氏は、大同工業高校の教諭をしておられましたので、大同工業高校の学生達が積極的に救援活動を行っていたことを話されました。



最後に第3部では、南区の水害対策に関するパネルディスカッションを行いました。私がコーディネーターを務め、本学都市環境デザイン学科の鷺見哲也助教授、南区柴田学区白水住宅自主防災会会长の柴田隆氏、南区役所総務課長の鷺尾卓久氏の3名にパネラーをお願いしました。最初に鷺見先生から南区のゼロメートル地域の現状について説明がありました。次に、柴田氏から自主防災組織の現状について説明があり、その後、鷺尾氏から南区の行政による水害対策の現状についての説明がありました。最後に、パネラーでディスカッションを行い、「水害に対するリスクをどのようにして住民に知らせるのか」、「最適な避難方法はどのようなものか」などが議論されました。

当日は、オープンキャンパスの日でもあり高校生の姿も若干見られましたが、参加者が少なく、特に地域住民の参加者が少なかったのは残念でした。当日配布した資料は、まだ残部がありますので、名古屋市南部の水害対策に関心をお持ちの方は、本学のエクステンションセンターへお申し出下さい。



山根宏之氏



高校生も参加



柴田隆氏・鷺尾卓久氏



高橋義雄氏

体育大会



平成18年度 体育大会

10月9日(祝)・10日(火)の二日間にわたって、学生会執行委員会主催の体育大会が開催された。今年度は天気にも恵まれ、総参加人数はおよそ550人。9日は、ソフトボール、ドッヂボール、卓球、バスケットボールが、また10日はサッカー、バドミントンが行われた。講義や普段の学生生活とはまた一味違う彼らの真剣な眼差しと活気を感じることができた大会となつた。

【成績結果】

ソフトボール	1位 杉本JAPAN	2位 T.TANAKA	3位 チョコボーズ
ドッヂボール	1位 おでん君	2位 大同太朗	3位 鬼畜米
卓 球	1位 ぬあ～	2位 ピンポンDASH	3位 Chiken Heart
バスケットボール	1位 四面楚歌	2位 6MEN	3位 Dicker Z
サッカー	1位 35km over MENTEI	2位 Surprise	3位 中☆堅11
バドミントン	1位 まみLOVERDS	2位 唐揚げラーメン	3位 手術's

レガッタ大会

2006年秋、DIT恒例の2つのスポーツイベントが開催された。

10月は「体育大会」、11月は「レガッタ大会」。

ここでは、各イベントの様子を写真で紹介しよう。



第43回 錦杯学内レガッタ大会

11月5日(日)庄内川ボートコースにおいて、クラブ委員会主催の第43回錦杯学内レガッタ大会が開催された。寒波の吹く例年とは打って変わり、今年度はすがすがしく晴れた、汗ばむ陽気の中でのレガッタ大会となった。参加人数は「クラブの部が18チーム90名」「一般の部が16チーム80名」の計170名。

現役大同生からOB・OG、教職員と幅広い年齢層が一緒になって青春時間を満喫した。

【成績結果】

- クラブの部
1位 ガンバレカドノ(自動車部)
2位 ピンクエンジェルス(モーターサイクルスポーツ部)
3位 ガンバレローレル(自動車部)
4位 寅土天国(E.D.P.S.部)

※ モーターサイクルスポーツ部の9連覇を自動車部が阻止。

- 一般の部
1位 筋肉室(職員)
2位 山田錦(オール吹奏楽団)
3位 Team D(堀研究室OB)
4位 新海丸

※ 筋肉室はうれしい2年ぶり2回目の優勝。



自動車部:全日本学生DRIFT王座決定戦に初挑戦

全日本ジムカーナ選手権での優勝実績もある伝統の本学自動車部が、更なる飛躍を目指して「DRIFT」に挑戦した。この大会は8月10日(木)に日光サーキットで開催された。エントリーは総勢86校、167人。本学の目標は「とにかく目立つ!」だ。そのメラメラした気持ちが届いたのか、雑誌「ドリフト天国」には大同・大同・大同の文字が!入賞もしていないのに…。それはなぜかというと彼等は目標どおり目立っていたのだ。全員揃いのツナギでかっこよく!

今年の目標は見事に達成した自動車部。来年の目標はと聞くと「もちろん、入賞です!」と力強く答えてくれた。



DFP(大同フォーミュラプロジェクト)3度目の挑戦

学生が自ら構想・設計・製作した車両による競技会、全日本学生フォーミュラ大会が9月13日(水)から16日(土)の4日間、静岡県袋井市にある「ECOPA・小笠原総合運動公園」で開催されました。DFPは今大会が3度目の挑戦。初挑戦の時は、総合23位、昨年は総合20位、そして今年は…。

最終競技「エンデュランス(1週900mのコースを、チーム2名のドライバーが11周づつ走行し、合計22周のタイムを競う)」の直前に、チームリーダーの水野俊亮くん(03M)にインタビューをしてみた。

◆今年のマシン(DF06)はどうか

去年は目標重量より40キロ近くオーバーしてしまったが、今年のマシンは軽量化を前提として開発した。165キロの目標に対して、現在の実測値は170キロ。ほぼ目標通りにできた。第一の目標が「軽量化」だったので、全体的な完成度としても満足いくレベルだと思う。



◆順位としてはどのあたりまでいけそうか

順位的には全体の半分に到達できるかできないか、というところだと思う。

耐久走行の中で「燃費をどれだけ使わないか」という競技があって、昨年はそこで4位に入った。3位から上はトロフィーがもらえるので、何とか今年はもらおうと考え、エンデュランスで燃費をかけないようにセッティングしている。燃料を無駄に使わないような設計。



◆このプロジェクトに参加して良かったか



参加して良かったと思う。ただ授業で勉強することも大切だが、実践の場でやってみるとまた全然違う。自分でも分かったつもりでやっていたが、実際に走ってみると全然違う。たとえば設計値などでも「これでいい」と思っていたものが全然足りなかつたり。その結果、いろんなことが本当に体にしみ込むように身についた。自分にとって良い体験がで

きたと思う。

と話してくれた数分後、エンデュランスの8周目、本学のDF06は動かなくなってしまった。リタイヤだ。なぜ!? ピットに帰りすぐに分解、原因をつきとめないと気が收まらないメンバー。「えっ!? ガソリンが全くない…」。22周走れる燃料が、8周目でなくなるはずがない。まさか燃料漏れ…いや、あの厳しい車検をクリアしたのに考えられない。がそのままかの原因だった。燃料タンクに水を入れ激しく揺らすと1滴、2滴…。自分たちでは何ともできない、メークに注文した燃料タンクに亀裂が。涙を流すメンバーたち。最終総合結果はエントリー50チーム中、35位。こうして彼らの挑戦は終

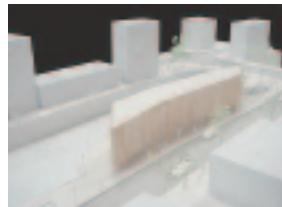


わった。

しかし、この終わりは同時に始まりを意味していた。その涙から一ヶ月後、次のメンバー募集会で1年間の感想を「しんどかった…でも毎日ワクワクしていた。また何よりも同志ができた!」と口を揃えて笑顔で話す彼らがいた。



木村暁彦さん(DZ06)愛知建築士会学会コンペでファイナル進出



「納屋橋リバーサイド」を再び賑わい溢れる魅力的な空間にする楽しく活気溢れるプランを募った「納屋橋ルネサンス」に挑戦した木村さん、応募登録数:173件・提出作品数:58点の中から7点のみ選ばれるファイナルに進出しました。プレゼンでは意識間で親水行為が喚起する場「共感覚ターミナル」を提案。この施設は様々な問題をディスカッションし、その情報を発信するコミュニティー(蔵)の役割を果たすこと。最終結果は、見事「佳作」に選ばれました。おめでとう!

橋本慶彦くん(05BM) 国際学会シンポジウム(中国・北京)で論文発表

10月16日(月)～19日(木)、中国・北京で開催された国際学会シンポジウムに、橋本慶彦くん(05BM)が参加し、論文「非線形系の応答推定に関する実験的研究」を発表した。

このシンポジウムへの参加を決意したのは、前年の夏、五島教授のアシスタントとして、ドイツを訪問した際に語学的重要性を再認識させられて帰国したそのタイミングに、以前ゼミ等で交流があった東京大学の川口教授と指導教員である萩原助教授から声を掛けられ、自分に語学力につけるための良いチャンスが到来したと熱い気持ちになったからだと彼は言う。

発表後、東京大学や名古屋大学の教授から「聞きやすくてよかった」とお褒めの言葉をいただき、自分でも満足しているとのこと。英語での論文作成はかなり苦労したが、「萩原先生の指導のおかげ」と感謝の言葉を述べている。最後にこのチャレンジから得たものはと聞くと、『就職試験の面接ネタ…』とジョークで笑わせてくれた。



軟式野球同好会 新人戦で全国優勝校に競り勝ち、見事準優勝!

軟式野球同好会は、平成15年6月、楽しく野球をすることを目標に、当時の1年生ばかりで創設され、先月同好会への昇格が認められた若いサークルである。秋のリーグ戦を最後に3年生が引退し、現在は1年生ばかり12人とマネージャー1名が、週3日練習に励んでいる。新人戦、初戦の相手は今年度全国優勝の中京学院。投手高野瀬君の力投と堅い守りで0-0のまま延長戦。10回にキャプテン岩山君のタイムリーでサヨナラ勝ち。2回戦も延長戦に入り、またも5-4でサヨナラ勝ち。しかし聖徳学園大学との決勝戦は、部員が少ない上に、3日間の連戦で、投手・野手ともに力尽きて0-10で大敗した。半数近くが野球経験がなく、初めて公式戦に出場した部員も多い中で準優勝した喜びとともに、多くのことを学んだ大会であった。



後編 Seven Years of Passion

OOD267 山崎 吉範

第5章 スペイン編

イタリアから帰ってきた私は、歴代W杯の試合を192試合、総時間17280時間ものビデオを見て研究した。以前よりサッカーの試合を見て感じることが明確になった気がしていた。大学4年の9月、今度は単身でスペインに行くことを決めた。向かった先はバルセロナ。グランドにつくと選手達がボールをまわしていた。すぐにエトー、デコ、ロナウジーニョだとわかった。練習後、うまくタイミングを見計らってロナウジーニョに声をかけた。私「オーラ」口「オーラ」心臓が止まるかと思うほど緊張したが精一杯の勇気を振り絞った。夜は、バルセロナ

Another Real Face もうひとつのかたち

の本拠地でリーガエスパニョーラの試合を観戦した。

第6章 ドイツ編

そしてヨーロッパ最後の勉強先はドイツ・ブンデスリーガのバイエルンミュンヘン。ここでは、練習の方法やフォーメーション、連携の確認の仕方を勉強し、ノートにまとめた。そして待ちに待った、ヨルゲン・クリンスマント、ドイツ代表監督率いるバイエルンミュンヘンコーチ陣との会談。第一印象は紳士。クリンスマントとの会話の中で、サッカー選手として一番大切にしなければならない事についての話題になった時、ある言葉に感銘を受けた。“サッカー選手は、まず第一にサッカーというスポーツが一番好きであること”幼い頃からサッカー選手を目指してきた選手達はもちろんサッカーが好きである。当然のことだとは思うが、あえてこう言ったクリンスマントの言葉が深く心に残った。

第7章 ドイツW杯観戦編

2006年6月に開幕した“ドイツW杯”。当然現地

小山朋樹くん(03A)がグランプリに また赤地志帆さん(03A)が準グランプリに輝く!

笠嶋研究室・卒業研究の一環としてチャレンジした須山建設(株)主催の「がんこおやじマンションデザインコンクール」に小山くんの「空の家、土の家。」がグランプリにまた赤地さんの「The Air House」が準グランプリに輝いた!

前回チャレンジした別コンクールでの反省点を納得できるところで改善したことが、グランプリ受賞に繋がったと語る小山くん。様々なコンクールにチャレンジし続ける研究室スタイルのもとで、経験を積み成長している自分を再確認できたコンクールとなつたようだ。



古田寛生くん(MA06)・増田卓朗くん(02A) 「形態創生コンテスト2006」での挑戦



構造形態創生のアルゴリズムや考え方を用いた、「新しいかたち」や「独創的なアイデア」を評価するコンテスト「形態創生コンテスト2006」に大空間(ドーム)建築を研究している古田寛生くん(MA06)と地震や風など横からの力に抵抗する形を研究している増田卓朗くん(02A)の萩原研究室コンビがタッグを組んで挑戦した。

彼らが挑んだテーマは、「アーケードの構造形態を創生する」。アーケードの新しい形態や形態創生の方法を構造側から提案するもの。

ケーブルをうまく用いて、鉄骨を平行ではなく、斜めに組んだ形を提案した二人は、12組のエントリーがあった中、見事最終4組に残り、11月15日(水)の決勝コンテスト・プレゼンテーションに駒を進めた。

大林組・京都大学大学院・横浜国立大学に挑んだプレゼンテーション。準備・知識・経験不足を痛感させられた結果に終わった。負けたまま終わるわけにはいかない、この「苦い経験」が「最高の経験」であったといえる自分を目標に、次のコンテストにチャレンジすると答えた古田くん、11月10日(金)に話した時よりもさらにカッコよく、輝いていた。負けるな、踏ん張れっ!!

もうひとつのかたち

まで行って観戦するのが一番の勉強になる。なんとか予定を合わせてドイツ行きを決め、決勝トーナメント・準々決勝からの全8試合を観戦した。その中で特に印象深く残っているのは、私が優勝と予想したアルゼンチンとドイツとの一戦。この試合は当然、スタジアムはドイツ一色。選手達が入場するとスタジアムが揺れる。だんだんと高まる緊張の中、試合が始まった。お互い一步も譲らぬ展開、結局PKでドイツが勝利。試合中はしっかりと試合の流れ、監督の動きなどを觀察し、勉強になった。試合を間近で見られてよかったです。勉強するのも大切だが、やはり私も一人のサッカー小僧。選手が近くにいればそれだけテンションも上がる。今の子供たちもぜひ、様々なスポーツの感動をライブで見てほしい。子供の時に衝撃を受けた映像はずっと頭に残りその後の自分自身に大きな影響を与える。私が見た、あのフランコ・バレージのように。

滝春キャンパス

TVの撮影現場に
滝春キャンパスが
シークレットで……

日テレ放送の「恋愛部活（ラブカツ）」が
8月10日（木）、シークレット撮影を決行。
MCの田丸麻紀さんも来学。



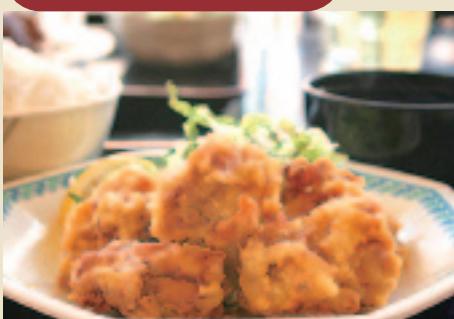
おまけ
音楽研究部も中庭で
ポスター撮影

DIT 学生食堂
メニュー人気ランキング

■カフェ&カレー（ゴビー喫茶）
30年以上変わることなく、DIT学生に定番メニューを提供しつづけています。
店長

第1位

唐揚げ定食



毎日食べている学生がいるほど
飽きない人気メニュー！(400円)



第2位
カツカレー



なんてったって、ボリューム満点！
(400円)

ひそかな
グルメスポット^⑨

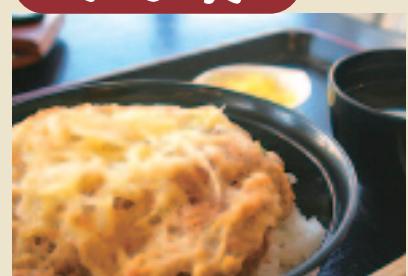
DITの近くの学生向けグルメを紹介します

学生からのウラ情報……

僕は全メニューにたれをかけてみました。
一番うまいのは、カツ丼。
つゆだく好きな僕は毎日、たれを並々とかけて
食べています。今では白いご飯にまで…。
ちなみに、カレーにかけると少しルーが
増えた気になりますよ！

第3位

カツ丼



厚みがあってやわらかい、こだわりの
ヒレカツをご賞味あれ！(400円)

「開かれた」建築教育 ～工場に併設される倉庫付2世帯住宅編～

9月1日(金)、建築学科3年生(前期)による建築設計Ⅲのプレゼンテーション。作品を説明する学生の表情がイキイキしている。当然である。プレゼンテーションの相手は、住宅の建築を検討中である“本物”的依頼者なのだから。

課題のテーマは「工場に併設される倉庫付2世帯住宅」。依頼者は本学の近隣で工場を経営する家族。この日は一家4人でプレゼンテーションに参加した。「どれもよくできていて迷ってしまう」とは、ご主人の声。精巧に作られた建築模型を興味深そうに見つめ、学生の説明一つひとつに大きくうなずいた。そんな依頼者の反応が、学生に大きな刺激を与えたことは間違いない。担当教員である宇野享助教授(工学部／建築学科・建築専攻)は、「相手のダイレクトな反応に接することに大きな意味がある」とこの提案体験型授業の意義を語った。



住宅に学生のアイデア

設計モデル無料提供
大同工大、地元市民に

日刊工業 (2006.9.18)

川戸和英教授(情報学部／情報学科・メディアデザイン専攻)公開講座 (名古屋市生涯学習推進センター主催) の講師を務める

10月4日(水)11日(水)、名古屋市生涯学習推進センターで川戸教授による「メディアとことばの戦後史」を開講しました。

講座では、終戦後から現在にいたるまでの懐かしいCM映像、その時代の政治、流行語などをスクリーンに映し出し、言葉の移り変わりをわかりやすく説明しました。

受講者達は昔懐かしい映像をのめり込むように観て、その時代の自分にタイムスリップしている感覚を楽しんでいました。



にしおの「産業活性化展」に西堀研究室 (工学部／ロボティクス学科)が出展

西尾商工会議所50周年事業・にしおの「産業活性化展」が、10月21日(土)～22日(日)、西尾市文化会館で開催されました。本学からは西堀研究室が出展。「2足歩行ロボット」の操作や「からくりロボット」を実演し、子どもたちの視線を釘付けにしていました。



茂吉雅典講師(情報学部／情報学科・メディアデザイン専攻) 岐阜市生涯学習「長良川大学」講座の 文化講座(岐阜県芸術文化会議主催)の 講師を務める

10月14日(土)、岐阜県ハートフルスクエアGで行われた本講演は、『岐阜における発電事業と石造物(橋)について』と題し、我が国における電源開発として先駆的な開発であった名古屋電燈株式会社と多治見電燈株式会社の歴史や、その発展における重要人物、福沢桃介と加藤乙三郎についてなどを紹介するものとして行われた。

また、明治、大正時、土岐川水系に建設した四つの発電所が、2001年3月、全ての発電の歴史を閉じた。発電所はいずれも花崗岩を用いた石造り建造物で全国的に希少なものであったが、新たなダム建設に伴い、ほとんどの発電施設や人道橋などが姿を消したこと。しかし、第興運発電所への人道橋「興運橋」は、住民の保存運動によって移設され、産業遺産として残されていること。そしてこのような電気産業の発展の陰にある人々の知恵と努力の歴史を忘れないためにも、こうした産業遺産について知ることやこれらを有意義な形で残すことはとても大切なことである、と総括して話された。

電力供給の歴史解説

工学博士・茂吉雅典さん
橋車における発電事業と石造物(橋)について

岐阜新聞 (2006.10.28)

浅井淳講師(工学部／ロボティクス学科) 公開講座(南生涯学習センター主催)の 講師を務める

10月24日(火)
から4週間、全4回にわたり、本学マルチメディア教室で「ホームページの作り方」を開講しました。講師は浅井先生で、本学・情報学部の学生がアシスタントを務めました。



今回の講座は、ホームページがどのようにできているかを知つてもうため、パソコン初心者には少し難易度の高いHTML言語を使用。受講者のなかには、その記述に少々戸惑い気味の方もいましたが、4週目にもなると画像の貼り付けや、他ページへリンクを張ることなどもできるようになっていました。

修了後のアンケートでは、「ていねいに教えてくれたおかげで理解できた」や、「ホームページがどうやって作られているのかがわかつてよかったです」などのコメントが多数寄せられたなか、「この講座の発展的な講座を早々にやってほしい」という意欲的な要望もいただきました。

小林正典教授(工学部／機械工学科・ 先端機械工学専攻)大学連帯シリーズ講座 (名古屋市生涯学習推進センター主催)の 講師を務める

各大学の教員が日替わりで講師を務め、研究の最前線を伝える「大学連帯シリーズ講座」。全6回シリーズの第3回(11/9)に小林教授が登場しました。

100人を超える受講者に「整形外科インプラントの研究開発と承認審査」と題して、講座を展開しました。

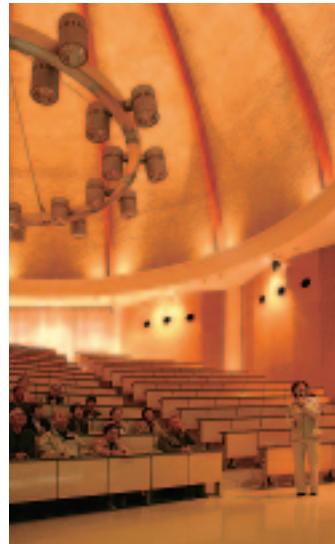
尾張旭市長寿学園生の 『ワクワク』DIT生一日体験

11月14日(火)、尾張旭市長寿学園生20人のみなさまが、本学滝春キャンパスを訪れ、講義・実習と一日DIT生を体験されました。

1時限目はゴビーホールで、横山弥生助教授(情報学部／情報学科・コンピュータサイエンス専攻)による「PC画像おもしろ発想講座」。はじめは大型講義室のもの珍しさに落ち着かない様子でしたが、いざ講義が始まると一斉にペンを取り先生の話に集中していました。講義

はパワーポイントを使って、鰐節・そうめん・金平糖・おはじき・葉っぱ等、日常よく目にするものに画像処理を施すことによって生まれてくるCGデザインの世界を時折クイズも交えながら、おもしろく展開されました。

A棟14階ラウンジでの昼食後、2時限目が創造制作センターで始まりました。青山正治教授(工学部／機械工学科・機械工学専攻)による実習「金属の性質を生かしたメタルコースターザクリー」。まず、コースターの形状を作るために、円盤状の銅版を金ヅチで打って、絞り込みながら外縁を作りました。その後、コースターの底部に、動物や植物等の模様をデザインし、線に沿って釘を金ヅチで打ってきずをつけ、デザインを浮き出させました。



製作時間およそ2時間30分、世界にひとつしかないオリジナルメタルコースターが完成しました。

講義・実習終了後は、ロボット工房・図書館等、キャンパス見学に案内しました。キャンパスを移動する際に聞こえてきた「もっと勉強したい!」という会話から、このDIT生一日体験が尾張旭市長寿学園生のみなさまにとって学習意欲を深めるイベントになったのではと嬉しくなりました。



「開かれた」建築教育 ～ポンプ車修理工場建替え編～

11月17日(金)、建築学科の学生およそ50人と笠嶋泰教授・宇野享助教授(工学部／建築学科・建築専攻)がバスに乗り込み、コンクリートポンプ車修理工場へ向かった。3年生後期の「建築設計Ⅳ」が始まったのだ。

課題は、修理工場の建替え計画。依頼主の工場主は「現在の工場を、最近取得した隣地を使って、ポンプ車4台分の修理スペースをもったオフィス付き修理工場とともに、外から何をやっているか分かる開放的で明るい建物としたい、また騒音で外の人や家に迷惑がかかるないようにもししたい」との強い希望をもっている。

さあ、このおもしろい!? 設計条件に学生たちはどう立ち向かうのか。



大盛況!「親子すくすくこども健康教室」



11月18日(土)、本学石井記念体育館等で、「体を動かす生活習慣を身につける」をテーマに親子すくすくこども健康教室を開催しました。「こども」も「大人」も楽しんで参加できるとあって9回目の今回は、過去最高のおよそ100人が参加しプログラムに取り組みました。

お母さんたちは講義室で、カゴメ株式会社の管理栄養士・大同病院の先生を講師に「健康を考えた“野菜とお米、パスタの組み合わせ”」「よく“かむ”ことは大切ですよ!」「“ケガ”をしにくい体つくり」「子どもの成長・発育～成長曲線・肥満度曲線を使ってみよう～」の4点を勉強しました。

また体育館では、本学ハンドボール部のお兄さんをリーダーにチームを分け、いろんなボールを使って楽しく体を動かすとともに、運動の前後では心拍数等を測定し、体の変化も調べました。

最後は親子そろって、ストレッチ＆ダンス。体育館の寒さも吹っ飛び、笑顔の絶えない、暖か健康教室となりました。



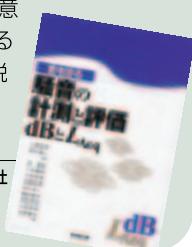
教員の新刊書出版

『音を診る 騒音の計測と評価/ dBとL_{Aeq}』

情報学部／情報学科・情報ネットワーク専攻
三品善昭 教授

情報学部／情報学科・メディアデザイン専攻
大石弥幸 教授 他

極めて身近な存在であるはずの音だが、新しく学ぼうとすると専門用語の障壁が高く、理解を困難にしている。本書では、まず音や耳の基礎的な性質について簡単に説明するとともに、dBやL_{Aeq}、WECPNLなど初めて騒音を学ぶ人々のために専門用語の意味内容と概念をできるだけ詳しく平易に解説している。



出版社 技報堂出版株式会社
発行日 2006年8月25日
定 価 2,520円(税込)

『パワーエレクトロニクス入門』

工学部／電気電子工学科
佐藤義久 教授

パワーエレクトロニクスは電気・電子・制御が融合した電気を賢く使う為の総合技術である。

本書は、広範囲にわたるパワーエレクトロニクス技術のなかから基本的な内容を精選し、初心者向けに分かり易くまとめた入門書である。



発行所 丸善株式会社
発行日 2006年6月30日
定 価 2,310円(税込)

ジオテクノート⑯

『濃尾平野の地盤 -沖積層を中心に-』

工学部／都市環境デザイン学科
大東憲二 教授

このジオテクノートシリーズは、地盤工学にかかわりあう基本的な理論や考え方、地盤特有の性質、あるいは教科書や一般図書では取り扱われることが少ない内容などのうち、理解が難しいと思われる題材をわかりやすく重点的に解説することを目的として出版している。本書は、理学と工学の両面から見た濃尾地盤について分かりやすく解説している。本書の第4章「地下水と地盤沈下」が大東教授の執筆となっている。

発 行 社団法人地盤工学会
発行日 2006年6月30日
定 価 1,575円(税込)





やるじゃんトピック!!

●茂吉雅典講師（情報学部／情報学科・メディアデザイン専攻） 原作 「ほたるよ飛べ 平和の空で」

8月19日（土）、20日（日）に岐阜県各務原市で開催された『平和のための戦争展』で、「ほたるよ飛べ 平和の空で」が上演されました。

この作品は、1945年6月の各務原空襲で、空襲の的にならないよう桜の木を切り倒したり、ホタルを殺したり……と実際にあった出来事を取り入れ、戦争によって幸せを奪われた小さな女の子とその家族の悲劇（茂吉先生原作の児童文学「水無月の日に」）を舞台化したものである。

『平和のための戦争展』は、毎日新聞、岐阜新聞、岐阜放送の「夕やけアラカルト」で紹介され、茂吉先生もラジオ出演し、各務原空襲の様子、今回の作品について紹介した。



●第38回 リーダースキャンプ 報告

[学生室]

8月28日（月）～8月30日（水）、長野県の黒部観光ホテルで、各クラブ間の交流を深め、今後の協力体制を強化することを目的とし、各クラブの代表者を集めリーダースキャンプが実施されました。

初日は、ホテルへ到着後すぐに開会式が行われ、クラブ委員長・学生部長の挨拶後、服部先生から「リーダーとしての条件」というテーマで講演会が行われました。この講演会は、サッカー・ワールドカップを題材とした、資料と映像が使われ、わかりやすくリーダー像を解説するものでした。また学生達はサッカーという身近な題材であったこともあり、90分弱という長さの講演にもかかわらずしっかりと聞き入っていました。

夕食後、各部屋（グループ）においてグループ討論会が行われました。

2日目は、午前中に前日のグループ討論会で浮き上がった疑問点や問題点を全体で話し合う全体討論会が行われ、様々な意見交換がされました。午後からは体育館で、スポーツ交流（ドッヂボール）が行われました。夕食は打ち上げ交流を含めて、盛大に行われました。

3日目（最終日）、午前中の閉会式では、全体討論会のまとめの報告やクラブハウス棟付近の清掃活動の提案がありました。続いて学生部長より総評があり、最後にクラブ委員長より閉会のあいさつがされ、昼食後、バスに乗り込み現地を発ちました。

全体を通して、学生達のクラブ活動に対する熱い思いを感じることができたリーダースキャンプでした。今後のクラブの活性化も彼ら



なしては勿論考えられません。今回話し合った内容・学んだことを部員へしっかりと伝え、よりよいクラブにしていくってくれることを期待します。

●横山弥生助教授（情報学部／情報学科・コンピュータサイエンス専攻） 個展「BLOSSOM～私のシンメトリーの系譜」を開催



理事長と横山助教授

9月5日（火）～9月10日（日）、地元名古屋での初個展がノリタケの森ギャラリーで開催されました。

円形や球体など主にシンメトリー（対照性）な図形を2次元と3次元のCGでデザインされた作品およそ120点を展示。テーマは「BLOSSOM（開花）」で、花や果実、宝石などをモチーフに幾何学的な模様を描き、「開花」のイメージを表現したこと。

また、この個展は「中日新聞」の紙面でも紹介されました。

さらに、10月28日（土）～11月9日（木）、その作品の一部（20点）が名古屋大学情報科学研究科棟の一階ロビープレゼンテーションコーナーに展示されました。



中日新聞（2006.9.9）

●大東研究室（工学部/都市環境デザイン学科） 「環境デーなごや2006」中央行事に出演

9月17日（日）、栄の「もちの木広場・エンゼル広場・久屋広場・光の広場」で「環境デーなごや2006」中央行事が開催されました。

これは、環境問題を取り組む市民や事業者、行政が一体となって成果などをPRするイベント。

本学は毎年参加しており、今年は「リサイクルフラワーボトル工房」と、「名古屋の地盤環境と水環境」を出展しました。



「リサイクルフラワーボトル工房」では、ペットボトルを利用したフラワーボトルの材料と花を100セット用意しましたが、瞬く間になくなってしまうほど大盛況でした。

「名古屋の地盤環境と水環境」では、「堀川を清流に」を合言葉に行なった「堀川エコロボットコンテスト」に出展した機材や、地盤の液状化を再現する装置の展示・実演をしました。

本学は他にも、「環境デーなごや2006」春の地域行事の「クリーンキャンペーン」企画にも参加するなど、積極的に環境問題に取り組んでいます。

●創造製作センターものづくり教室



10月21日（土）、創造製作センターの主催で「第4回ものづくり教室“つくろーかい！”ネームプレート／ウォールタイルの制作」が開催された。

発砲スチールを繰り抜いて自分の名前をつくり、土台に貼り合わせて鋳型に入れ、溶解したアルミニウムを流し込むとオリジナルのネームプレートができる。日程を追加して、塗装と研磨で仕上げ作業。参加費500円で特製プレートをお持ち帰りできるなんて超お得な教室。参加した学生たちは、自作のプレートを手にご満悦の様子でした。



●橋口宏衛講師（工学部／ロボティクス学科）
第15回国際マイクロロボットメイズコンテストで「Reliability Award」を受賞！



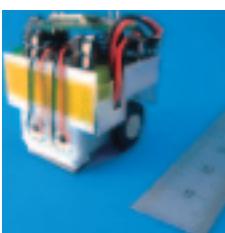
11月5日（日）、名古屋大学野依記念学術交流館で「第15回国際マイクロロボットメイズコンテスト」が開催されました。

橋口先生は1インチ立方の大きさのロボットを遠隔操作して、迷路を通り抜ける時間を競う「遠隔操縦型マイクロロボットメイズ競技」にエントリー。ロボットにくっつきそうなくらいの位置で赤外線リモコンを操作している他の参加者とは

違い、唯一Bluetoothによる遠隔操作で競技に挑んだ橋口先生。タイムでは上位3位に入ることはできませんでしたが、一度も倒れたりコースアウトすることがなかったため、最も信頼性の高いロボットに贈られる「Reliability Award」を授与されました。

聞くところによると、ロボットの製作・調整においてはおよそ半年の時間を要するものだが、橋口先生は何だかんだで忙しく、3日間の徹夜で作り上げたとか…。

とにかく、おめでとうございます！そしてお疲れさまでした。



●堀内研究室（工学部／都市環境デザイン学科）
「建設技術フェア2006 in 中部」に出演



11月8日（水）・9日（木）の両日、ナゴヤドームで「建設技術フェア2006 in 中部」が開催されました。

本学は、堀内研究室が出演し、「アンチモンによる環境汚染の調査・評価と排出処理技術」を紹介しました。

これまでに研究例の少なかった、カーテンやカーペットを燃え難くする助剤等として需要の多い「アンチモン」に注目し、愛知県内にあるアンチモン利用工場の周辺で環境調査を実施した結果や人体に及ぼす有害性等をわかり易く説明しました。

●小野宗憲教授（工学部／ロボティクス学科）
「技能検定委員永年勤続者感謝状」受賞

10年間、技能検定審査員を務めてきた功績により、愛知県職業能力開発協会から「技能検定委員永年勤続者感謝状」が授与されました。

技能検定審査員として、加工技術を評価し続けてきた小野教授、今では作業している背中を見るだけで合否の判断ができるほどだと。

検定会場として訪れた多くの工場内の様子や製造現場を担っているベテランの方々のリアルな話を学生に伝えつつ、就職支援にも尽力してきました。

授賞式の11月22日は、偶然にも小野教授の誕生日。重ねて、おめでとうございます！



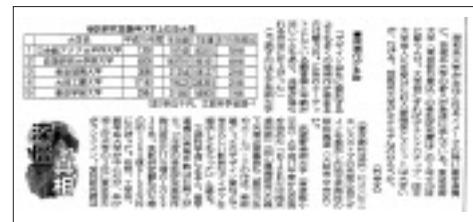
●杉浦正勝キャリアセンター長
就職ご意見番として新聞紙面に登場

11月27日（月）、日刊工業新聞に「人材確保に四苦八苦」の大きな文字が。全国1位の有効求人倍率を誇る愛知県において、募集人員に達していないと頭を抱えている企業。その現状を打破するためのアドバイザーとして本学の杉浦キャリアセンター長が取材を受け、紙面で紹介された。



●「受託研究金伸び率」DITが全国4位にランクイン！

11月27日（月）の産経新聞に、行政や産学連携に関する受託研究費の伸び率上位5大学が掲載され、本学が全国4位にランクインされた。

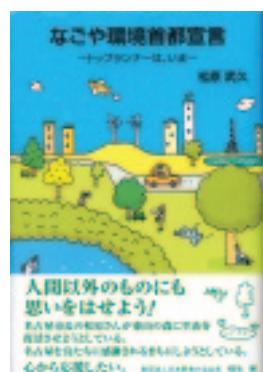


産経新聞（2006.11.27）

●大東憲二教授（工学部／都市環境デザイン学科）と松原市長

名古屋市長の松原武久さんが執筆した『なごや環境首都宣言～トップランナーは、いま～』で、大東教授が座長となり、市の関係職員と一緒にプランづくりを進めている「なごや水の環復活推進会議」について紹介された。

気温の上昇が目立つ名古屋市。それだけでなく平均湿度がはっきりと低下してきている。それは道路舗装により雨水が地下に浸透しにくくなつたことも原因であると考えられる。また、下水の整備によって大幅に改善された河川の水質であるが、まだ天ぷら油など分解できない物質もあり、健全な水の循環を回復することが課題となっている。こうした課題に取り組むため策定しているのが「水の環復活プラン」である。



●アーヘン工科大学との提携協定が延長される



アーヘン工科大学長B.ラウフ博士と澤岡学長（2006年9月15日）

協定期限が12月で終了することから、澤岡学長がアーヘン工科大学を訪問して協議した結果、4年間の協定延長が決まり、同大学で調印式が行われました。

アーヘン工科大学ではドイツ語の講義だけでしたが、最近、英語による科目が多く開設されました。大同工業大学からの交換学生を歓迎するとの呼びかけが同大学からありました。本学の学生は奮って留学生に応募してほしいとの呼びかけが澤岡学長からありました。

アーヘン工科大学は創立140年のドイツ有数の理工系大学です。学生数は約3万人、外国人学生は5600人の大きな大学です。1990年に本学と協定を結び、共同研究や学生の交換を行ってきました。

協定期限が12月で終了することから、澤岡学長がアーヘン工科大学を訪問して協議した結果、4年間の協定延長が決まり、同大学で調印式が行われました。

青山姉弟 レポート



●最近交わしたDITの話題は?

姉→先生のことや学食のこと。
弟→姉も自分もお世話になった笠嶋教授について。

●きょうだいでDIT、得したことは?

弟→笠嶋教授が優しいです。

●DITの数少ない女子、女の子で得したことは?

姉→学食やコンビニの店員さん達が顔を覚えてくれていろいろ得した!

●DITの数少ない女子、だから○○でした!

姉→出席確認のとき、顔を覚えられていたからあまり名前を呼ばれませんでした。

●好きな学食メニューは○○です。→その理由

姉→「好きな学食メニューは、昔の滝春校舎の2階にあった喫茶店のモーニングです。」→おばさんたちとも仲良しだったし、食パンはおいしかった!

弟→「好きな学食メニューは、小鉢です。」→1つ60円か90円いろいろなメニューが!

●DITのお気に入りスポット

弟→B棟学生ホールの自販機前カウンターテーブル。いろいろな出会いがありました。

●○○先生感謝しています!→その理由

姉→「笠嶋先生(ゼミの先生)感謝しています。」→大学で1番楽しかった4年生のとき、先生含めみんな仲良くて、卒研もがんばって、充実としても思い出に残りました。

●大学生活で一番の思い出は(卒業生)

姉→ゼミの仲間で旅行したこと。

●DIT生活を漢字1文字で表すとしたら?→その理由

姉→「仲間」(…2文字だけ)→同級生はもちろん、先生にも恵まれ、勉強は大変だったけど楽しい学校生活で、4年間あっという間でした。今でもみんな仲良くやっています。

●最後に一言、ご自由に…

姉→4年間、長いと思っていたらあっという間でした。就職してからじゃできないことも大学生ならできたりするし、やりたい事、やるべき事は後回しにせずどんどんしてかなきゃ後々後悔すると思います!



05A 青山武央くん(弟)



98A 本多敬子さん(姉)とゼミの仲間
(旧姓: 青山)



2007
2/14~25
日
*19日(月)休館日 10:00~17:00

入場
無料

シンポジウム次第

2/24 土
13:30~16:05
(13:00開場)

●主催 大同工業大学
●展覧会・シンポジウム参加校
大阪大学・滋賀県立大学・
豊橋技術科学大学

13:30	開会挨拶
13:35	取組説明
〔採択校事例報告〕	
13:40	大阪大学 リノベーションまちづくりデザイナーの養成
14:00	滋賀県立大学 スチュードントーム「近江楽座」
14:20	豊橋技術科学大学 地域協働型工房教育プログラムの開発と実践
14:40	大同工業大学 工住混合地域の街並形成へのデザイン提案
15:00	休憩
15:20	討論会 質疑応答
16:00	閉会挨拶

定員
100名
(先着)

会場 (財)名古屋都市センター 金山南ビル11F
名古屋市中区金山町1-1-1 TEL 052-678-2200(代)

新任教職員紹介

経理室 次長／志水 登



教職員の皆さん、こんにちは! この10月に縁があり、大同学園に赴任して参りました。

下手なゴルフと麻雀、旅行・ドライブが好きな57歳です。愛好家の方々、是非お誘いください。

長年大同特殊鋼で経理・総務職にたずさわってきましたが、独特な会計基準・私学法・寄付行為にとまいどいつつ、早や2力月が過ぎようとしています。

私立大学が大きな変革期を迎えた今、学園のなかで経理部が果たす役割もますます増大し、責任をひしひしと感じています。

微力ながら、学園の経理というパイプ役を通じ経営改善に貢献出来るよう、悔いの無い様努力する所存であります。

どうか、皆さんのお理解とご支援をお願い申し上げます。

編集後記

紙面で紹介した「レガッタ大会」にチーム筋肉室のキャブテンとして、今年も参加しました。過去8回のチャレンジでは優勝1回、準優勝5回。今回は2年ぶりの優勝を目指した。今まではオールを漕ぐ「スピード&パワー」重視で勝負してきたが、今年は違う。「長く水をキャッチ＆ロー」だ。(単純にチームの若さが無くなったのか…?)結果、このスタイルと気持ちがすばらしいスピードを生みだし、見事優勝! 今回の優勝賞品は「ニンテンドー DS Lite & もっと脳を鍛える大人のDSトレーニング」。クルーの5人全員に。ゲーム関係は小学5年の時に「ディスクシステム」で卒業した私がハマっている。脳年齢は未だに59歳だが…。 DAIDO CAMPUS 編集長 伊藤雅士(31歳)



Cafe@dit



●フラガール

総務部・人事室／後藤 輝巳

時折、裸足で事務所内を徘徊している人事室・後藤です。最近観た中でイチオシの映画『フラガール』を紹介します。

閉山に追い込まれた炭鉱のまち福島県いわきで北国のまちを常夏の楽園に変えようと奮闘する人たちの奮闘と葛藤をユーモアにそしてさわやかに見せてくれています。特に最後のダンスは圧巻です。本当にいい映画でした。ぜひ観てください。

ダンスといえば、職員の披露宴などに時折登場する大同フラボーイを紹介しないわけにはいきません。さわやかさは全くありませんが、圧巻です(残念ながら写真の掲載はNGとなりました…。)なかでも人一倍、激しいダンスを披露しているのが最近結婚して、幸せ絶頂の入試室・松井くんです。彼を次回Cafe@ditに指名させていただきます。娯楽が続いたので、次回は大学らしく知的にキメてもらおうと思います。

テーマはカントの『純粹理性批判』をお願いします。



レガッタ大会にて

人事

採用/H18.10.1付

●本部

〈事務職員〉

志水 登(法人本部 経理部 経理室 次長)

退職/H18.9.30付

●大学

〈嘱託職員〉

小林 吉盛(産学連携共同研究センターリエゾンオフィス)